

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年1月22日

【評価実施概要】

事業所番号	0970101861		
法人名	株式会社メデカジャパン		
事業所名	今泉ケアセンターそよ風		
所在地	栃木県宇都宮市中今泉4丁目22-1 (電話) 028-613-5781		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成21年12月10日	評価確定日	平成22年1月22日

【情報提供票より】(平成21年11月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤11人(うち兼務2人), 非常勤4人, 常勤換算11.8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての2階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	63,000 円	その他の経費(月額)	・理美容代、おむつ代、嗜好品一実費	
敷金	有(126,000円)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(500,000円)	有りの場合償却の有無	有(4年間)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	350 円	おやつ	150 円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要(平成21年11月25日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	7 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83.8 歳	最低	74 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人康積会 柴病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームの母体法人は全国に各種の事業所を展開しており、栃木県内では8つのデイサービスセンターと3つの認知症対応型共同生活介護事業所を運営している。ホームの同一建物内には小規模多機能型居宅介護事業所とデイサービスセンターが併設されており、行事や防災訓練等で連携を図りながら多様な支援に努めている。また、市のコミュニティーセンターや図書館、スーパーが隣接する閑静で便利な立地条件を活かして、入居者のペースに合わせた日常的な外出や地域との交流を実施している他、人材の育成にも力を入れており、職員に研修会の情報提供を行い、積極的に参加できるようにしており、資質の向上にも取り組んでいるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	預かり金は家族が訪れた際に報告していたが、家族の要望も取り入れ、金銭出納帳のコピーを毎月送付するように改善した。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は昨年と同じもので、職員との話し合いは持たれなかった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、入居者、家族、自治会副会長、民生委員、地域包括支援センター職員等がメンバーとなり、2ヵ月毎に開催されており、入居者の生活状況やホームの支援状況等を報告している。参加者から提供される情報は地域との交流に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に苦情相談の窓口を明示している他、意見箱を設置しており、意見等が寄せられた時には、説明をして理解を求めている。家族の笑顔が増えたり、訪問や行事への参加が増えることを願って職員間で日々話し合いを重ねて来たことから、家族の訪問が増えつつある。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	運営推進会議のメンバーが地域の行事を知らせてくれたり、自治会の回覧板で事業所の行事を案内してもらいながら、夏祭りやコミュニティーセンターのイベント等に参加し、地域の人々と交流することに努めている。また、近隣からの入居者が多いこともあり、地域の方の訪問もある他、畑の手入れを手伝ってくれるボランティアの方の訪問も受入れている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念と年毎のスローガンがある他、事業所として独自の理念を作り上げている。更に事業所の理念に基づきながら、状態の変化に合わせたその年の目標も職員全員で話合っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所に理念等を掲げ、月に1度のスタッフミーティングや日々の申送りの際など、機会あるごとに立ち回り、職員間で共通理解を図りながら、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議のメンバーが地域の行事を知らせてくれたり、自治会の回覧板で事業所の行事を案内してもらいながら、夏祭りやコミュニティーセンターのイベント等に参加し、地域の人々と交流することに努めている。また、近隣からの入居者が多いこともあり、地域の方の訪問もある他、畑の手入れを手伝ってくれるボランティアの方の訪問も受入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月に1度のスタッフミーティングや日々の申送りの際など、機会のあるごとに理念に添った支援のあり方を見直してはいるが、今回の自己評価は昨年と同じもので、職員との話し合いは持たれなかった。預かり金は家族が訪れた際に報告していたが、家族の要望も取り入れ、金銭出納帳のコピーを毎月送付するように改善した。	○	自己評価は、職員全員で取り組んでいく過程において、職員の意識合わせ、ケアの振り返りや見直し等が可能となることから、全職員で計画的・継続的に取組んでいくことを期待したい。また、外部評価の結果と併せて、改善に向けた具体案の検討及び実践につなげる努力をしていくことにも期待したい。

今泉ケアセンターそよ風

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、入居者、家族、自治会副会長、民生委員、地域包括支援センター職員等がメンバーとなり、2ヵ月毎に開催されており、入居者の生活状況やホームの支援状況等を報告している。参加者から提供される情報は地域との交流に活かされている。	○	外部評価の結果を運営推進会議でも公表し、改善に向けた取り組みや経過のモニター役になってもらう等、評価と運営推進会議を一体的に活かす為にも参加メンバー各々に運営推進会議の意義や役割等に関する理解を深めてもらえるよう働きかけていくことを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の方針として市担当職員は運営推進会議には出席していないが、管理者は居宅介護支援専門員の経験を活かして市担当職員と支援に関する相談等をしている。	○	市担当職員は市の方針により、運営推進会議に出席していないことから連携の難しさはあるが、今後は認知症サポーター養成講座等の市が関わっている様々な事業を通して、市との連携の機会を模索して行くことを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に入居者の日常生活の様子や健康状態等を知らせている他、広報誌及び入居者の担当職員が手紙を毎月送付する等、定期的かつ個々の状況に合わせた報告をしている。預かり金は、家族が訪れた際に報告していたが、家族から詳細報告の要望が出された事から、出納帳のコピーを手紙や広報誌に添えて毎月送るように改善した。なお、職員の異動は広報誌に掲載している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談の窓口を明示している他、意見箱を設置しており、意見等が寄せられた時には、説明をして理解を求めている。家族の笑顔が増えたり、訪問や行事への参加が増えることを願って職員間で日々話し合いを重ねて来たことから、家族の訪問が増えつつある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動がある場合の引き継ぎは、新しい職員と馴染みの職員がペアとなり、早く入居者と馴染めるように工夫をしている。管理者は、離職を抑える努力として、職員同士の相性を勘案しながら、話し合いやシフトを調整するなど、働きやすい環境づくりに配慮している。		

今泉ケアセンターそよ風

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や内部の勉強会の他、外部研修にも参加を促している。認知症介護実践研修は順番に参加出来るように計画している。研修に参加した後は、報告書を作成し、スタッフミーティングで職員間で知識の共有を図っている。また、県内の同法人のグループホーム間で、職員を別のホームに派遣する実地研修も実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会やケアマネジャー協会などに加入、参加しており、同業者との交流に努めている。また、県内に同法人のグループホームが3ヶ所あり、相互交流をしている他、市内のグループホームとも見学等の行き来を実施している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人及び家族に1～3回程度ホームに見学に来てもらい、日中他の入居者と過ごしながらホームの雰囲気を体験し、徐々に馴染めるよう配慮しており、納得してから入居が出来るようにしている。併設のデイサービスセンターの利用から入居に至る入居者もいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者から煮物料理や衣替えのこと、洗濯物のたたみ方、畑仕事等を教えてもらう他、日常の言葉の中からも教わることが沢山あると感じており、共に支え合う関係を築いている。職員からは、「一緒に楽しんでいる」という言葉も聞かれた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉や行動等から、希望や意向をくみ取ったり、把握することに日々努めており、日々気付いた点等を申送りノートや個人記録、業務日誌等に記録して職員間での共有を図りながら、本人本位の暮らしが送れているか検討をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフミーティングの記録や個人記録、業務日誌や家族の意向等から介護計画を作成している。家族の意向は来所時に確認を行っている。来所が難しい家族には、介護計画を郵送しており、意向等を返送してくれるよう依頼することで、家族の意向が反映されるように努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、計画期間毎の定期的な見直しの他、必要に応じてその都度見直しをしている。変化が無い場合でも、月に1度のスタッフミーティングで現状に即しているかを確認をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期的な通院は家族が対応しているが、職員が代わりに薬を貰いに行くこともある。また、併設のデイサービスセンターと合同で料理教室等の行事を実施したり、デイサービスセンターの車を借りて外出したり、機械浴槽を借りて入浴の対応をしたりと多機能性を活かした柔軟な支援に努めている。		

今泉ケアセンターそよ風


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医での受診となっており、受診の際には家族に対応をお願いしている。急病や突発的な怪我等に関しては、職員が対応しており、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時にホームでは医療面での支援に限界があることを家族等に説明をしているが、昨年、終末期の入居者を受入れ、主治医や家族と連携して支援を行った経験がある。	○	今後、入居者の重度化に伴い想定される状況を本人・家族及びかかりつけ医等と話し合いを行い、重度化や終末期に対する事業所としての対応方針を職員全員で共有しながら、体制を整えていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者と職員の間で失禁した時の始末の仕方を予め決めておき、人知れず対処出来るように努めており、「恥をかかないように気を遣っている」という管理者の言葉通り、さり気ない言葉かけで入居者に配慮している様子が見られた。個人記録等は事務所に適切に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、入居者一人ひとりの生活のペースを大切にしておき、午後一番の入浴を希望する入居者に対応したり、食の細かい入居者には夜食を用意したりと、本人の希望や状態に合わせた支援に努めている。		

今泉ケアセンターそよ風

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食のおかずを入居者が選択できるようにしている他、毎月1回の美食祭り、祝日の祝い膳、季節の行事食等において工夫を凝らしている。昼・夕食のおかずは階下のデイサービスセンターから届き、朝食及びご飯と味噌汁、日曜日の食事はホームで調理をしている。調理や後片付けを一緒に行う入居者もいる。昼・夕食時は、職員は入居者とは一緒に食事をしていない。	○	食事における入居者の気持ちや意思を大切にしながら、一人ひとりの前向きな気持ちを引き出すような声かけや支援の工夫を期待したい。また、職員は介助する一方にならずに入居者と同じものを一緒に楽しく食べることを検討して行くことに期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の概ね全員がほぼ毎日入浴している。一番風呂を希望する入居者には、一番での入浴を行うなど、一人ひとりの希望やペースに合わせて、ゆっくり入浴が楽しめるような支援に努めている。現在、夜間時の入浴を希望する入居者はいない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の生活歴や現状の能力を踏まえながら、職員が声掛けを行い、興味のある事柄を探す努力をしている。入居者は毎朝の役割として掃除機やほうきを使って掃除をしたり、歌やゲーム、野菜づくり等の他、日曜日にはたこ焼きやおやつ作りをしており、楽しみごとや気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が良い日には散歩をしたり、朝のゴミ出しをしながら近所を廻って来たり、買い物に出かけたりと、日常的に外出する機会をつくっている。また、定食屋や喫茶店にも出かけたりしている他、年4回季節毎に遠出をしている。今後は、更に月に1回程度は外出気分になれるような場所へも行きたいと考えている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は階下にあり施錠されていない。2階にある事務所とホームにはそれぞれの入り口があり、ホーム側の出入り口は施錠されている。事務所側の出入り口は開放されているので、ホームから事務所を通して廊下への出入りはできるようになっている。	○	見守りの方法も含め、鍵を掛けずに安全に過ごせる為の工夫を検討しながら、自由な暮らしを支えて行く取組みに期待したい。

今泉ケアセンターそよ風

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画を作成して消防署に提出しており、消防署員の協力のもと、入居者と職員が参加して、年2回の避難訓練を実施している他、地域の消防訓練にも参加している。また、近隣の住民に有事の際の協力を依頼している。水、食料の備蓄も行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は併設のデイサービスセンターの栄養士が作成しているが、朝と日曜日の分に関してはホームの職員が献立を作成して栄養士に確認してもらっている。また、食事や水分の摂取量を記録して把握をしている他、一人ひとりの状態や咀嚼力、嗜好に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある装飾等がさり気なく配置されていて、落ち着いた雰囲気がある。不快な音や光、空気のだよみや気になる臭い等は無い。広い共用部分には、ソファや椅子等が置かれ、居心地の良い空間づくりがなされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族とも協力して、本人の馴染みの品々を持参してもらっている。居室には、筆筒、鏡台、位牌、テレビ、ビデオ、冷蔵庫、鉢花、ぬいぐるみ等々が持込まれている他、写真等も飾られている。それぞれが居心地の良い居室となっているが、入居者間で持込まれている物の量には差があり、一部には持ち込みの少ない居室もある。	○	持ち込みの少ない入居者もいることから、それぞれの事情を照らしながら、無理のない範囲で馴染みの品が持ち込まれ、その人らしく過ごせる部屋になるよう、入居者及び家族とも話し合いを重ね、根気よく支援し続けることを期待したい。

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。